

～開業奮闘記～

誰が興味あるねん

八 治 屯

第41話 「恫喝」

歯科医院の治療中は患者さんは基本的に目を隠している状態なので、かなり「ドクターやスタッフの話し声」が気になると言われています。

僕もチェアサイドに行くことが多いのですが、その辺りはかなり気をつけるようにしています。

これは僕が27歳の時の話です。当時歯科医院の院内ラボに勤務しており、厳しさの中にも楽しみとやりがいを感じながら仕事をしていました。

スタッフ同士も非常に仲が良く、仕事終わりにドクターや衛生士さん達としょっちゅう飲みに行く毎日でした。

僕は特にK先生というドクターと仲が良く、工作中も常にバカ話をしていました。

ある日K先生が診療の空き時間に技工室の僕の作業場に来て、いつも通りバカ話をしていた時の事です。

いきなり診療室から院長先生が怒りの足音でこちらにやって来て（院長先生は足音で感情がわかるタイプの方だった）、すごい剣幕で

「お前ら、じゃあかましいわああっ！！だあっつっつとれ！！アホンダラッッ！！！」

（訳：あなた方、いささか騒がしいので静かにしましょうね、あほんだら）

と怒鳴りつけられました。

院長先生は厳しい方でしたが、大声を出すタイプではなかったので僕たちはかなり面食らいました。

「なんであんなに怒られたんやろ・・・」と、K先生と2人で震え上がったのを覚えています。

ただ、その真相はすぐに判明する事に。

その時院長先生のアシストにしていた衛生士さん曰く、

「村田さんとK先生の声が大きすぎて、診療室中に話し声が響き渡っていた」との事。

確かに僕の技工机は診療室から一番近い所にあり、しかもヤバいくらい下品なネタでめちゃくちゃ盛り上がって声が大きくなってしまい、患者さんに内容を全部聞かれてしまったのでした。

『俺の○●を×▽が#※して、%★がㄱㅇしやがった！！ガッハッハ！！！！』

内容はここに書けるような内容ではありません。

往年のたけし軍団の「亀有ブラザーズ」以上に下劣な内容だったと記憶しております。

思い出はいつの日もビターです。

あの時の院長先生の顔は忘れる事ができません、シカゴブルズの牛かビーフジャーキーの天狗のような赤い顔で激怒されていました。

I藤U策先生、あの時は本当に申し訳ありませんでした。

